

# 大宅文庫ニュース

2025年8月 公益財団法人大宅壮一文庫発行 通期90号



伊澤 理江さん 4頁に寄稿

# Inspire Impossible Stories

「おもしろくて、ためになる」を世界へ



KODANSHA

公益財団法人大宅壮一文庫 理事長

大宅 映子



雑草譜

うのだ。大使館からのお招きなんて初めてのこと。どんなごちそうが出るかと、家族で大騒ぎ。まあ、おいしいワインと、ちよつとしたおつまみみたいなものだろう、という予想で決着した。

当日、迎えのベンツに乗って大使館へ。招待されたのは、父・大宅壮一とノンフィクション・クラブから財界研究所

それ以上は出てこない。せめてワインはと願ったが、むなしく時は流れた。帰りの車の中で、父は半べソをかかほどの泣き笑い。「今日のハイ・テイーには驚いたな。いくら何でも、へへへ」と笑いながらベソをかいていた。父のあんな泣き笑いは後にも先にも見たことがない。わが家に帰り着くまで何度も思い出しては泣きべそ笑い。行く前のそんな驚きとは一転して、イギリスとスコット

英国流儀と大宅壮一流儀

一九六八年のこと。イギリスのタブロイド紙が、一面を使って、老人が犬に棒をふり上げている写真を載せた。「日本人は犬を虐待している」というキャプションを付けて。いったい何のことやら、さっぱり理解が出来なかった。

その数日後、駐日イギリス大使館から連絡があった。何とイギリスにご招待くださった。その前に大使館へ、とい

さて、問題の午後のお集まりの食べ物だが、大使は自分の机に座ったまま。私たちは大使の机を囲んで適当に座った。クッキーと紅茶が出てきた。次は何だろうと待てども、

※雑草譜 大宅壮一が自宅に構えた書庫を「雑草文庫」と称したのになむ

CONTENTS

寄稿 開示資料 黒塗りだらけ 伊澤理江 4
寄稿 雑誌ジャーナリズムと大宅文庫 三木哲男 5
『大宅文庫解体新書Ⅱ』9月発刊 6
雑誌レーダー2025 7・8
特集 大宅式索引でたどる戦後重大事件史 11・12
ルポ 関口宏の『雑誌の記憶』収録 13・14
大宅賞に西崎伸彦さんの『バブル兄弟』 16
生成AIが描く大宅文庫の未来像 17・18
大宅文庫パトロネージュ堅調 19・20
「がんばれ雑誌企画」充実パワーアップ 23
大宅文庫インフォメーション 24~26



3億円事件を伝える誌面(週刊誌 売1968年12月27日号) = 11P



「寄り道旅」徳光さん一行ご来館 24P

一文字ずつ手描きで原図を作成し、活字を鋳造する型となる母型を機械で彫ります。母型のない活字は職人が彫刻刀で直彫りして作字します。



# 市谷の杜 本と活字館 Ichigaya Letterpress Factory

棚に並んだ大量の活字から、原稿にしたがって、一字ずつ選びます。この作業を「文選」といい、活字の配列を覚えている文選職人は素早く活字を拾って文章をつくります。

五感で楽しむ、リアルファクトリー。

活字を拾う。印刷の原点である活版印刷は、膨大な活字が並ぶ棚から職人が原稿に合わせて、一文字ずつ、拾っては並べてを繰り返して文章を組み上げます。作字、鋳造、文選、植字、印刷、製本。想像を超える緻密な作業と途方もない数の工程を経て、一冊の本が仕上がります。

「市谷の杜 本と活字館」のテーマは、活版印刷と本づくり。この施設は、大正時代に建てられた大日本印刷の市谷工場の営業所を修復・復元したものです。館内には、かつての印刷工場の風景を一部再現した印刷所があり、ここを仕事場として、職人が活字を拾い、印刷機を回しています。

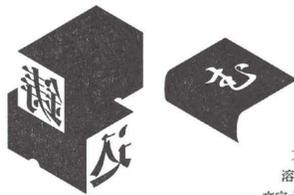
二階にある制作室では、印刷と本づくりを体験することもできます。他にも活字や本づくり関連の企画展を行う展示室や大日本印刷の歴史を紹介している記録室、さらには購買、喫茶などがあり、知識を深めながら楽しい時間を過ごすことができます。

一八七六年創業の大日本印刷は、日本の近代活版印刷文化の始まりとともにあります。活字に親しみ、歴史を探索しながら、奥深く美しい、印刷の世界をお楽しみください。



拾った活字をページの形へと組み上げます。余白になる行間や文字間もすべて金属で埋め尽くして、印刷のための版に仕上げます。

印刷された紙を折り、重ねて綴じて、本の形状に仕上げます。綴じ方には、糸かぎ綴じ、中綴じ、無線綴じなどの手法があります。



文字の型である母型に溶けた金属を流し込んで、一文字ずつ、金属活字をつくります。良質な印刷には活字の均一性が求められます。



完成した組版を機械にセットし、インキをつけて紙に刷ります。校正機で校正刷りを行い、誤植がないか確認した上で、本機で刷ります。

住所：162-8001  
東京都新宿区市谷加賀町 1-1-1  
電話：03-6386-0555  
開館：10時～18時  
休館：月・火(祝日の場合開館)  
入場無料



ichigaya-letterpress.jp

DNP 大日本印刷

# 『黒い海』で大宅賞など受賞から2年

いざわ・りえ 1979年生まれ。ノンフィクション作家、東京都市大学メディア情報学部准教授。英国ウェストミンスター大学大学院ジャーナリスト学科修士課程修了。

## 寄稿

伊澤 理江



一昨年、拙著『黒い海 船は突然、深海へ消えた』（講談社刊）で大宅壮一ノンフィクション賞、講談社 本田靖春ノンフィクション賞などを受けた。2008年に突如、太平洋沖で沈み、17人が犠牲となった「第五十八寿和丸沈没事故」を題材にした作品。国の事故調査で「原因は波」とされたが、事故発生時の状況や生還者の証言などから、潜水艦との衝突による船体破損が強く疑われている。

# 開示資料黒塗りだらけ

## 事故解明支える「出版の力」

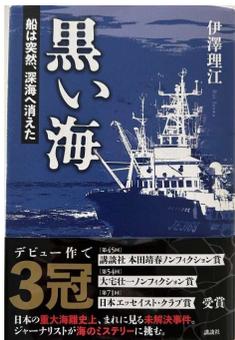
に過ぎない。公的な営みであるはずの事故調査で、いったい何を隠すのか。市民に明かせないものが、いったいどれほど存在しているのか。誰が検証しても同じ結果になるのが「科学」である。だとするならば、誰も検証できないブラックボックス状態の事故調査とは何か？ 「結果だけ見せればいい」という姿勢なのだとしたら、どんなに加減な調査もできてしまう。ちなみに米国ではすべての事故調査資料を世界中どこからでもオンラインで閲覧できる。寿和丸訴訟の傍聴席には最初、私以外は

きそうになったこともある。大宅賞などの受賞も大きな支えとなった。出版と賞をきっかけに、この不可解な事故に注目が集まり、新聞で訴訟の特集企画が組まれた。テレビ局記者が事故の真相を追うことに関心を示している。出版の力を感ずるし、この事故に光が当たるのをうれしく思った。ところで、この春から私は東京都市大学メディア情報学部の教員になり、学生にジャーナリズムを教えている。「オールドメディアは偏向報道をしている！」と信じて疑わない若者が多い昨今だが、社会を変えた調査報道を紹介しながら、ニュースがどのように作られているのか、権力監視が機能した場合とそうでない場合の異なる末路などを詳しく

取材の過程では、国の運輸安全委員会が手がけた事故調査の資料を開示請求したが、一切開示されなかった。特定の場合を除き、公文書は開示が原則だ。そのため、私が参加している調査報道グループ『フロントラインプレス』を原告として、運輸安全委員会（国）を相手に非開示決定の取り消しを求める裁判を起こした。それが3年前のこと。

そんな訴訟の途中、ようやく一部の資料が開示された。開示といっても、文書はほとんど黒塗り。ごく一部だけが見えている

誰もいなかった。ところが、『黒い海』を読んだ読者がクラウドファンディングを通じて訴訟をサポートしてくださったり、女性のグループが傍聴に来てくださった。いつもと違う傍聴席の風景に原告代理人弁護士が「法廷を間違えた」と思い、出て行



『黒い海』  
船は突然、深海へ消えた（講談社刊）  
2022年12月第1刷

### 活字の面白さ伝える役割

若い人は新聞・雑誌を読まない、本を読まない、と嘆く前に、その面白さを伝えていくことも私たちジャーナリズムに関わる人たちの大切な役割だ。その点からしても、大宅文庫は貴重な記録の集積、ジャーナリズムの宝庫。先人たちが心血注いで取材し、残した時代の記録は何物にも変え難い。

写真（表紙も）：穂吉 洋子

## 寄稿

## 雑誌ジャーナリズムと大宅文庫

## 浮かび上がる「裏の裏の真意」

寝ても覚めても企画を考える——というほどには勤勉ではなかったが、7年半務めた婦人公論編集長時代は相当に慌ただしかった。

朝、ワイドショーで女優が離婚するとのニュースが流れると、出社前に自宅から担当デスクに取材の指示を出し、出社後は芸能事務所、芸能リポーター、芸能記者に電話をかける。そうするうちに、伝説の芸能リポーター、梨元さんから連絡が入る。「恐縮、恐縮、梨元です！三木さん、離婚の真相、ワイドショーが言ってるほどきれいなことではないよ」。例の大声と早口。受話器を離さない耳が割れそうだ。

梨元さんからの電話は、いつも新情報をもたらしてくれた。離婚の原因は今やりの「卒婚」なんて都合のいい言葉ではまとめられない。裏には人に言えない深刻な事情が隠されているはずなのだ。

テレビ、スポーツ新聞の速報が止むと、週刊誌が追いかける。雑誌編集長としてはここから勝負。女優



三木 哲男

の過去の報道をつぶさに追う必要がある。大宅文庫から女優に関する記事を洗い出し、必要な記事をフアクスで送ってもらう。ニュース第一報のあと、われわれの仕事は関係者への取材と大宅文庫の過去記事の読み込みである。

新聞、テレビのストレートニュースと違って大宅文庫はすべて雑誌記事。そこには、他誌にない情報をなんとか織り込もうとする記者の執念が漂っている。ひとつ一つの記事が微妙に違っており、単発ニュースでは見えなかった影の部分が浮かび上がってくるのだ。

その女優が語った離婚の理由。「す

中央公論新社 社長特別補佐

中央公論新社元常務取締役、婦人公論編集長。兵庫県生まれ。東京学芸大学卒。編集者、フリーライターとして週刊誌にかかわり各誌に寄稿。2000年中央公論社入社。中央公論編集部を「経て2006年から編集長を務めた。取締役書籍編集局長、常務取締役書籍編集局長を歴任、本年から現職。テレビのコメンテーターとしても活躍中。

れ違いが長すぎた。信頼関係も壊れてしまった」。これしきのことであるのだろうか。説得力はほぼゼロ。語れば語るほど好感度は下がっていく。にもかかわらず、口を開くには理由があるはず。いろいろ探っていくうちに、女優が夫の借金を肩代わりしていることが判明した。その借金を、離婚を機に清算してほしい。それが本音だった。雑誌記事にさりげなく綴られた金の貸し借り。そこからたどった、まあ「期待外れの真相」である。

雑誌記事を読み込んでいくといくつかの面白い発見があった。スキヤンダルの渦中、当事者をめぐる記事

があふれかえる。そのなかに、「関係者のコメント」なるものがここにしこに出てくる。これが当事者打ちのめす。あるアイドルは語る。「昨日、〃頑張つてね。私、ずっと応援しているから」と電話してきた人が、『本当に恥知らずですよ』なんてコメントしている。ずっと黙っていようと思っていました。嘘のオンパレードに我慢できなくなつた」スキヤンダルの当事者は、「関係者」がだれであるか、ほぼわかるという。だからこそ、「味方」の裏切りに絶望と怒りを覚える。火だるまになりながらも、当事者がインタビューに応じる背景には、「本当のことを知ってほしい」という切なる願望がある。雑誌ジャーナリズムがよって立つゆえんはここにある。

洗脳騒動で一時、姿を消したタレントは、肉親の執拗な借金に悩まされた。浮気が原因でバッシングに遭ったアイドルには、DVに苦しむ日常があった。いずれも第一報からは思いもつかない隠された事情だった。騒動がやんだ後の取材から拾うことのできた真実のかけらである。

SNSや個人ブログで当事者が発信する時代。言葉を換えれば都合のいい表現者でいられる。その発言の裏の裏の真意は、雑誌ジャーナリズムと大宅文庫の執拗さをもってたどるしかないのである。

# 大宅文庫『解体新書Ⅱ』 雑誌論考満載 9月刊行

勉誠社

2021年5月、大宅文庫の創立50周年に刊行された『大宅壮一文庫解体新書―雑誌図書館の全貌とその研究活用』（阪本博志・編、勉誠出版）の続編となる『大宅壮一文庫解体新書Ⅱ―雑誌図書館を活用した研究』が本年9月13日、大宅壮一の125回目の誕生日に刊行される。



（株）勉誠社＝東京都千代田区三崎町2-18-4  
TEL 03・5215・9021  
<https://bensei.jp>

前作は、社会学や近代文学をはじめ各分野の研究者が、それぞれの立場で大宅文庫の利用・活用方法を著した。所蔵雑誌や独自の雑誌記事索引から研究テーマにどうアプローチするかなどを実例を挙げて示した画期的な内容で、雑誌専門図書館である大宅文庫を俯瞰した初の専門的な利・活用本として好評を博した。

また2023年7月に大規模リニューアルを行った大宅文庫の雑誌記事索引データベース「Web OYA（bunko）」についても、嶋田志浩・文庫事務局次長が機能追加や更新のポイントを解説している。

## 『人物索引24年版』今秋刊行

### オンデマンド販売、23年版以前も受注

大宅文庫の最新の雑誌記事索引を基に、日外アソシエーツ（東京都品川区）が毎年度発行している「大宅壮一文庫 雑誌記事人物索引」の24年版が、今秋刊行される。同年中に刊行された雑誌の主要236種・4万5900件余の記事情報

今作も阪本博志帝京大文学部教授（大宅文庫学術顧問）が編集にあたった。阪本氏は「大宅文庫の自分なりの活用法を探り、今後の研究などに生かしてほしい」と話している。A5判。勉誠社が発売する。

今作も雑誌研究、テーマ別の記事研究など7点の論考が集まった。前作と合わせて20本を超える雑誌資料を活用した研究や調査の事例がそろふことになる。

論考以外にも「大宅文庫と私」に関するコラム3点を収録している。

## 雑誌記事で読む人物動向

# 大宅壮一文庫 雑誌記事人物索引

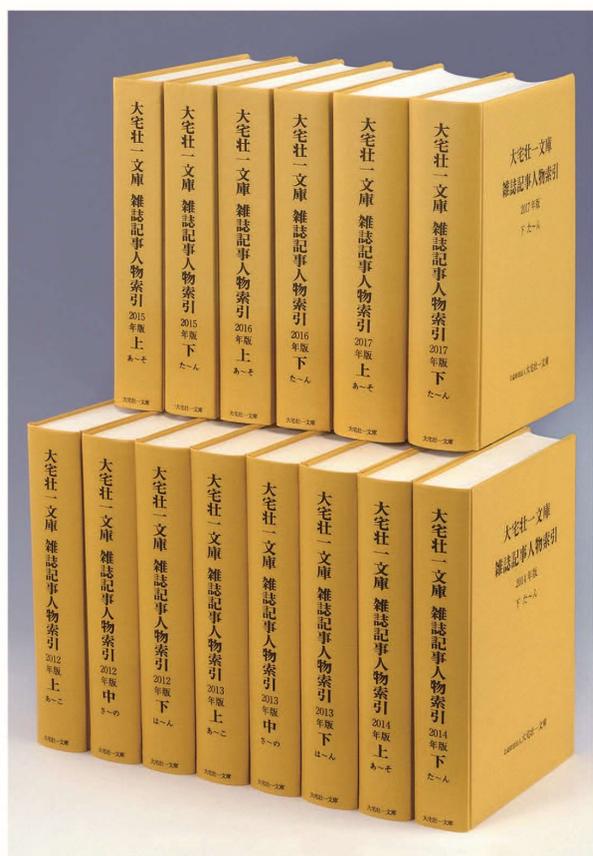
著編／公益財団法人 大宅壮一文庫

- 2024年版 今秋販売予定
- 2023年版 A4・上製本・2分冊 セット定価105,600円(税込)
- 2022年版 A4・上製本・2分冊 セット定価105,600円(税込)
- 2021年版 A4・上製本・2分冊 セット定価105,600円(税込)

2010年～2020年各年版もごぞいます。

- 大宅壮一文庫が雑誌から収録した人物索引データを、各年度版としてまとめた冊子体目録です。
- 様々な分野の話題の人物を収録。毎年のキーマンを通して社会文化の動向を読み通せます。
- 収録人物は雑誌300種に登場した政治家、経済人、作家、スポーツ選手、芸能人など、著名な活躍をした人物です。

※この商品はオンデマンド商品です(受注後、制作・納品いたします)。詳しくはこちらからカタログをダウンロード下さい→



販売代理店／日外アソシエーツ

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴木ビル大森アネックス  
TEL.(03)3763-5241 FAX.(03)3764-0845  
E-mail:sales@nichigai.co.jp <https://www.nichigai.co.jp/>

# 光文社

光文社は10月に創業80周年を迎えます。6月に一新したシンボルマークの7角形(光)と帯(しなやかで連続と続く文化)は、終戦直後の混乱期であった1945年の「創業の強い意志」と、2025年の「変革の強い意志」を表しています。「明日のあなたへ、ときめきを」のメッセージのもと、弊社の雑誌・Web媒体は変わることなく読者に寄り添いつつ、変化する時代に即した「ときめき」を届けます。



10月輝く創業80周年読者に「ときめき」を

(日本雑誌協会の主に役員社の寄稿を掲載しています)

出版各社の雑誌にまつわる最新ミニ情報を発信します



## 大宅文庫「がんばれ雑誌」連動企画

# 集英社

2005年に創刊された『UOMO』が20周年を迎えました。記念号となる4月号は平野紫耀さんが表紙を飾り、大きな話題に。またUOMO企画の藤原ヒロシさんによる講演は『FRAGMENT UNIVERSITY』藤原ヒロシの特殊講義」として書籍化され4刷のヒットとなりました。UOMOは「おしゃれな大人の着てる服、欲しいモノ」をキーワードにファッションはもちろん、クルマや美容、旅と食など毎号ひとつのテーマを掘り下げ、大人の男性の期待に添えていきます。

おしゃれ男性の期待に応え『UOMO』20歳

# 朝日新聞出版

今年と同じグループになったニートンプレスが「全力で猫を科学する」と銘打ってNewton増刊『Nyaton(ニヤートン)』を同時発売。両誌で記事を交換したり、書店のPOPをそろえたり。来年も大いに楽しませたいニヤ!



全力で「ニヤ〜」取材来年も楽しませます

猫の日(2月22日)といえば、AERA増刊『NYAERA(ニヤエラ)』

# 主婦と生活社

再来年に創刊70周年を迎える『週刊女性』。誌面を彩る記事や写真は変化し続けますが、「人の好奇心」に訴える本作りの姿勢は変わりません。これからもページをめくるワクワク感を読者のみなさんに提供し続けていきます。時代の流れに合わせてアップグレードも必要です。今夏、弊社は約40年過ごした京橋から浅草橋に移転。少し伸びた通勤時間に触れる新たな景色で、自身の好奇心もアップし誌面に活かしたい。願わくば、その景色内に読書に耽る乗客の姿が存在しますように。

社屋移転『週刊女性』の誌面もアップデート

# Gakken



1月号では特別企画も予定しています。

『最強のりものヒーローズ』は2025年で創刊10周年を迎えます。DVDとモノ付録がついたオンリーワンののりもの雑誌として誕生し、読者に支えられ駆け抜けてきました。子どもを取り巻く環境は変化していますが、「かっこよくて迫力あるのりものを見た」という読者の願望は強く、琴線に触れた企画や付録は大きな反響があります。

「最強」のりもの雑誌駆け抜け創刊10周年

# 新潮社

6月7日、新入社員5名と研修のため大宅文庫にお邪魔しました。昨年に続いて2度目ですが、わかりやすく整理された座学にまず感動。「人名」「件名」の双方で何に着目してどのように分類し、検索性向上にどう反映して役立てるか。図書館学の一端に触れるようで、配布資料と映像とお話に一同夢中で食い入ります。書庫では古い雑誌、文芸誌や時代を画した報道記事に触れ、時が経つのも忘れるほど。実際の検索と資料集めも体験し、全員にとっ

新入社員大宅文庫で今年も「充実の一日」

# 講談社

昨年、17年ぶりに大幅なりリニューアルを敢行しました。従来の文字のみが並んだ表紙から原点復帰。佳子内親王、俳優の阿部寛さん、農水大臣・小泉進次郎さんなど、ジャンルは限定せず、時の人、旬の人の最もいい表情を取り上げています。ロゴやデザインも一新した新生・週刊現代が徐々に読者の方にも認知されてきております。創刊から66年、積み重ねてきた歴史の重みを活かしながら、表紙同様、記事づくりも枠に収まらないチャレンジを仕掛けていきます。

『週刊現代』大幅刷新表紙に時の人、旬の人

# 『小学一年生』好奇心育んで100周年



『小学一年生』は2025年4月号で創刊100周年を迎えました。一年毎に読者は入れかわり、雑誌のなかみも時代を反映して変化し続けてきました。

創刊以来、一貫して変わらないのは、子ども達の好奇心を育み、学びを楽しんでもらおうという、編集方針です。100周年記念HPを開設していますので、皆様の『小学一年生』をぜひご覧ください。

<https://sho1-100th.shogakukan.co.jp/>

# 万博チケット一手販売ガイド本も大ヒット



当社は関西万博のチケット販売を一手に引き受けつつ、公式ライセンス商品のガイドブック『大阪・関西万博ぴあ』を発行、実売約60万部の大ヒットとなりました。6月末に第2弾を発売、詳細で見やすい会場マップやグルメ情報が好評です。

癒やしのニーズを掴んだ『森のカフェ緑のレストラン』シリーズも、17エリアで計約50万部を発行。今後も当社ならではの切り口を活かしたメディア創出を進めます。

# 日本のモノ・コト発信へ『COOL Begin』創刊



日本に、世界中から人が集まっています。伝統や文化、技術など、日本をもっと知りたいという世界のニーズに、モノ雑誌『Begin』流で応えよう！と、3月に『COOL Begin』を創刊しました。

モノに宿る日本の精神を英語と日本語で紹介。日常で使える魅力あるモノを選定し、それを買える/体験できる場所も併せて発信。身近なモノ・コトを通して、深く日本を学べるガイドブックです。

# 『孤独のグルメ』映画化『SPA!』連載息長く

『週刊SPA!』は今年で創刊37周年を迎えました。毎年恒例の新年号看板企画「男が選ぶ(好きな男・嫌いな男)」は今年で34回目、読者投稿コーナー「バカはサインレで泣く」は連載期間32年間で、読者に長く愛される企画を育んできました。

中でもコミック「孤独のグルメ」は今年遂に映画化され、日本国内のみならず韓国、台湾、中国でも爆発的ヒットとなりました。これからも常に変化する読者の欲望と不安に寄り添い、時代をスパッと斬り続けます！

# 価値ある経済情報誌 毎週届けて130周年

2025年秋に創刊130周年を迎える『週刊東洋経済』は、日本を代表する週刊情報誌として、経済分野だけでなく、社会問題、海外情勢なども幅広くカバーするなど「経済から社会を読み解く」スタンスを重視しています。

創刊以来、センセーショナルリズム(扇情主義)を排除し、フアクトにこだわる編集方針を堅持しています。組織や企業において重要な役割を担う意志決定層を読者ターゲットに、旬の経済情報を独自の視点で読み解き、毎週価値ある情報をお届けしています。

# 新人6人大宅文庫の雑誌パワーに感嘆

4月の新人研修で大宅文庫の見学へ。大宅賞を主催する弊社ですが、恥ずかしながら新人6人は大宅文庫を初めて知りました。しかし特別に見学させていただいた閉架の書庫の、雑誌雑誌また雑誌が並ぶ書棚の威容に圧倒され、実際に手にとり、電子媒体にはない雑誌実物のパワー、その歴史に連なる仕事に感慨をもっていました。

一つひとつの記事に人力で検索タグをつけられているからこそその利便性を、「週刊文春」に配属された新人たちは日々実感しております。見学、おすすめです！

# 『二流』を標榜し続け『アサヒ芸能』69周年

二流に耐えることは、一流になるよりも難しい。これは週刊アサヒ芸能創刊時の編集長、徳間康快の言葉です。あえて二流を標榜することでテーマの硬軟を問わない庶民のための週刊誌を目指すという意味が込められています。

そのアサ芸が今秋、創刊69周年を迎えます。節目としてはキリのよくない数字ですが、シックスとナイン：。部員一同、実にふさわしいとニヤリとしたのは言うまでもありません。でも、ニヤリの理由をズバリ書けない、二流に耐えることは本当に難しいです(笑)

# もうすぐ70歳雑誌の可能性は無量大です

日本雑誌協会は1956年に有志出版社30社によって設立されました。来年で70年。正会員81社、賛助会員9社と、日本の主要雑誌出版社のほとんどが加盟する組織となりました。

メディアを取り巻く環境は激変しましたが、雑誌が生み出す多様なコンテンツは、今や紙の出版物だけではなく、デジタル配信や映像化、イベントやEコマースなど、色々な形で読者へ届いています。これからも、みなさまの期待に応えられるよう雑誌メディアの新たな可能性を追求し続けます。

## あ

## 扶桑社

## 文藝春秋

## 日本雑誌協会

## 小学館

## 世界文化HD

## 東洋経済新報社

## 徳間書店



あ、しぼりたて。  
が、いつでも新鮮。

「生しょうゆ」の「生」って何？

って思ってたけど、そうか、これなんだあ。

フレッシュな味わいに、素材がぐんと引きたつ感じ。

その秘密は、火入れをしない非加熱製法から生まれた

鮮やかな色、おだやかな香り、まろやかで豊かなうまみ。

そして、開けてからも鮮度をキープする、密封ボトル。

一滴ずつ使えて、最後の一滴まで新鮮。

いつもの料理がほら、ひとつ上の味になる。

いつでも新鮮®

しぼりたて生しょうゆ



しぼりたて生

キッコーマンお客様相談センター 0120-120-358

kikkoman

おいしい記憶をつくりたい。

日本がおいしくなるワイン。



世界の銘醸に肩を並べる  
 日本ワインを目指す。  
 マンズワイン「ソラリス」<sup>\*</sup>シリーズ



徹底したこだわり

「ソラリス」シリーズは、国産(長野県・山梨県)ぶどうのみを原料として、ぶどう栽培から醸造まで徹底してこだわり、造りあげるプレミアム日本ワインです。小諸と勝沼、二つのワイナリーで醸造からびん詰めまで一貫して行い、出荷されます。

徹底した温度管理

ワインは、専用の定温倉庫で15度前後に保って保管し、出荷の際はクール便で配送。お客様へお届けするまで徹底した温度管理を行っています。

<sup>\*</sup>SOLARIS<ソラリス>とは、ラテン語で「太陽の」という意味。陽光をたっぷり浴びて育つ良質の葡萄だけを使うというマンズワインの思いをこめた言葉です。



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。

特集

今年には昭和100年、戦後80年。激動の1世紀を語る時、ことにも戦後の社会を揺るがした多くの事件史は避けて通れない。雑誌にとっても犯罪・事件報道は記事の「花形」だった。大宅一文庫の雑誌記事索引は戦後の「犯罪・事件」に分類される記事が約11万5000件にものぼる。その重大性から、後に日本の法制度や文化、生活を変えるきっかけになったケースも少なくない。大宅式索引から戦後史の一断面をひも解く。(大宅文庫索引チーム)

社会に衝撃 法制・暮らしに変化

昭和電工疑惑

1948年 46件

大手化学工業会社の昭和電工が政府高官や政府系金融機関幹部に対して行ったとされる贈収賄事件。出版社系の週刊誌が創刊される前の時代で、索引数自体は少ないが、当時の芦田均内閣は崩壊、逮捕者は直前まで首相だった芦田氏をはじめ64人(後にほとんどが無罪判決)にのぼり、戦後間もなく国を挙げて復興を急ぐ社会に衝撃が走った。

1956年には「造船疑獄」も起こり、これらの事件を受けて58年の刑法改正で「あつせん収賄罪」が創設された。

その後も大型贈収賄事件は「ロッキード事件」(76年)などが続いた。

◆「芦田内閣をつぶした昭電疑獄の裏面史」(『座談』1948年12月号)

給与振込に 輸送警備強化

3億円事件

1968年 296件

東芝府中工場の従業員に支

給されるボーナス2億9430万円余を積んだ車が白バイに似せたオートバイの男に車ごと奪われた、まさにドラマもどきの事件。現金窃取額としては当時の最高額。大卒者初任給が3万円程度の時代だけに、「1億総探偵状態」と呼ばれるほど、日本中の話題を独占した。

大宅式索引でたどる重大事件史

戦後80年

1948年	昭和電工疑獄	46件
1948年	帝銀事件	232件
1949年	下山国鉄総裁怪死事件	180件
1960年	浅沼稻次郎刺殺事件	73件
1966年	袴田事件	336件
1968年	3億円事件	296件
1970年	日航機よど号ハイジャック事件	572件
※日本赤軍によるハイジャックはさらにドバイ日航機事件(1973年・53件)、ダッカ同(1977年・91件)と続発		
1972年	連合赤軍あさま山荘事件	437件
1976年	ロッキード事件	1843件
1979年	三菱銀行強盗殺人事件	86件
1981年	ロス疑惑	1590件
1984年	グリコ・森永事件	698件
1987年	大韓航空機爆破事件	497件
1988年	リクルート事件	1029件
1995年	地下鉄サリン事件	263件
※オウム真理教事件は弁護士一家殺害(1989年・350件)、松本サリン(1994年・242件)などが先行		
1997年	神戸・連続児童殺傷事件	1060件
1997年	東京電力OL殺人事件	282件
1998年	埼玉・東京幼女連続誘拐殺人事件	672件
1999年	桶川ストーカー殺人事件	121件
2001年	大阪・小学校乱入殺傷事件	273件
2007年	イギリス人英会話講師殺害事件	195件
2008年	秋葉原・無差別殺傷事件	217件
2016年	相模原・障害者施設殺傷事件	220件
2019年	京都アニメーション放火殺人事件	103件

◆「東京・府中の現金輸送車奪取事件 詳細・怪盗が3億円を手中にするまで」(『週刊朝日』1968年12月27日号)  
◆「一億総探偵となった3億円事件 新聞も捜査本部も意見不統一のテンヤワンヤ」(『週刊文春』1968年12月30日号)

(左面に続く)

# 夫に照準 報道加熱 訴訟次々 8割勝訴

## 人権に配慮 手錠隠す契機に

### ロス疑惑

1981年 1590件

米国・ロサンゼルスを旅行中の夫婦の妻が銃撃され、輸入雑貨商を営む夫が保険金目的の殺人疑惑で逮捕された事件。発生から半年後に『週刊文春』の連載「疑惑の銃弾」から火が

つき、報道が過熱した。疑惑を否定した夫は、国内では当初の無期懲役判決から一転無罪に(米国捜査当局は殺人共謀容疑で逮捕。その後死亡)。夫側は

マスコミ各社を相手に名誉棄損などで500件もの訴訟を起こし、8割とも言われる勝訴を得た。こうした経緯からマスコミの事件報道への対応も変化。テレビなどでは容疑者が連行される際、手錠にモザイクをかけたたりするようになった。◆「疑惑の銃弾」ロスの日

### 「劇場型犯罪」に対応素早く

#### グリコ・森永

1984年 698件

江崎グリコの社長誘拐から始まり、全国のスーパーに青酸カリ入りの菓子が出まかれて、日本中をパニックに陥れた。「かい人21面相」を名乗る犯人からは警察を挑発する声明文が出た

され、日本で最初の「劇場型犯罪」と言われる。この事件を経て1987年、毒物混入防止法が制定され、業界では食品にフィルムをかけるなどの対応がとられるようになった。また、警察当局が犯人側に無線を傍受されていた反省から、警察無線が暗号化されたデジタル方式へと切り替

本人妻殺人事件に重大新事実! 1回(『週刊文春』1984年1月26日号) ◆「エンマ」や安部謙二に勝訴した「マスコミ裁判」の中間報告(『噂の真相』1990年6月号)

### 桶川ストーカー殺人

1999年 121件

女子大生が元恋人につきまとわれたあげく、殺害された事件で「ストーカー」という言葉を広めるきっかけになった。警察に相談したものの、民事不介入として対応されなかったことが問題視され、警察当局よりも先に雑誌記者が犯人を捉えていたことも話題に。事件翌年の2000年、「ストーカー規制法」が制定された。 ◆「ストーカーに狙われた美人女子大生の「遺言」 親友に託した犯人名」(『FOCUS』1999年11月10日号) ◆「埼玉県警を追い詰めた『ザ・スクープ』舞台裏 桶川ストーカー殺人事件が問いかけたもの」(『創』2000年6月号)

えが進んだ。 ◆「青酸入れた」憎つき「怪人21面相」の脅迫で、江崎グリコ「倒産の確率」(『週刊サンケイ』1984年5月31日号) ◆「「かい人21面相」事件は悪質な「劇場犯罪」」だ なぜ森永製菓が狙われるのか? なぜ警察発表が遅れたのか?」(『週刊ポスト』1984年10月26日号)

### 大谷さん2年連続トップ

#### 岸田内閣不名誉な2位

### 人物 事柄

大宅文庫が2024年の1年間に作成してデータベースに登録した主要雑誌376誌の記事索引は、計約11万件で、「人物」別、「出来事・事柄」別のトップ10は上の表の結果になった。人物は大谷翔平選手が2年連続で文句なしの1位。ドジャースに移籍して早々に54本塁打・59盗塁を記録、

世界中を沸かせた実績と、真美子夫人との結婚で話題を独占した結果が数字にも表れた。 出来事・事柄では、映画「君たちはどう生きるか」のアカデミー長編アニメ映画賞受賞などでアニメ関連が最多。岸田内閣は「金と政治」の問題で退陣し、不名誉な2位となった。

犯罪・事件はその当時の世相・社会環境を如実に表す。戦前や終戦直後は食糧のため、生きていくための事件が多く、戦後には自らの主義・思想を実現するための事件が増加した。 大宅壮一文庫の雑誌記事索引の【犯罪・事件】を見ると確実に時代の流れを感じることができる。起きてしまった事件を振り返り背景などを知ることが、新たな事件を防ぐ武器にもなるのではないかと。(小)

### 人物

- ①大谷翔平 608件 (①)
- ②ドナルド・トランプ 215件 (②)
- ③敬宮 167件 (①)
- ④松本人志 135件 (一)
- ⑤Aえ group 122件 (⑩)
- ⑥石破茂 110件 (一)
- ⑦今上天皇 97件 (⑧)
- ⑧少年忍者 96件 (一)
- ⑨小池百合子 89件 (一)
- ⑩HiHi jets 87件 (⑧)

### 出来事・事柄

- ①アニメ一般 434件 (④)
- ②岸田内閣 357件 (②)
- ③老人一般 339件 (⑦)
- ④人気スター 338件 (⑧)
- ⑤菓子一般 317件 (⑫)
- ⑥ポルノビデオ 306件 (⑨)
- ⑦インターネット 287件 (⑥)
- ⑧ジャニーズ事務所 282件 (①)
- ⑨(中国)経済・産業 263件 (⑪)
- ⑩ウクライナ 260件 (③)

カッコ内は前年順位。(一)は100位外

## 2024年 大宅文庫索引登録数

# 好評です「雑誌の記憶」



番組HPから 昭和平成とメディアのメインストリームであり続けた「雑誌」。近年のネットの隆盛の中で、その存在感は薄くなっているものの昭和平成の「同時代の情報」は雑誌にしかないものが多く、今、ネットで検索しても出てこない貴重な「当時の生の情報」の宝庫と言えるのが、「雑誌」なのです。

現時点で136年分、日本で出版されたほとんどの雑誌を所蔵、世界的にも稀有な「雑誌の図書館」となっている大宅壮一文庫。(中略)

雑誌が伝えてきた、その時だからこそ書き残された「日本の今」を掬い上げることで、今、流行っているもののルーツが浮かび上がることも！ 関口宏が自らの体験や記憶を掘り起こしながら、当時を知るゲストと物事の「本質」に迫っていきます。

## BS朝日 毎土曜放映



「団地」談義で盛り上がる関口さんとゲストのビビる大木さん

梅雨に入り時折小雨がぱらつく東京・世田谷。区西部の八幡山に位置する大宅文庫には、午前9時ごろから制作スタッフの第1陣10人ほどが集まってきた。もともと狭い館内は大量の機材や配線で足の踏み場もないほど。「(狭いので)カメラマンが撮影の部屋に入れないなど、他にはない苦労もあります」と

作業にあたる制作会社の山川彩夏さん。「でも、普通の収録に比べて、ここは膨大な雑誌で埋まる書庫との行き来があったりして、その点では変化があり、面白いですね」収録は、1テーマ2週分をダブルで、つまり4回放映分を1日で撮り切る。用意する雑誌は1テーマ分だけでもざっと50冊。すべて

# 収録の舞台は大宅文庫

## 収録誌で「時代の空気」今に重ね

BS朝日が昨年10月から毎週土曜夕方に放映する「関口宏の雑誌の記憶」が好評だ。毎回、収録の舞台は大宅文庫。主に昭和・平成時代の収録雑誌を書庫内から時々のテーマに沿ってピ

ックアップし、司会の関口さんとゲストが、雑誌でしか知り得ない「時代の情報」を切りとって現代と対比するユニークな番組だ。6月のある日曜日、収録の一日を現場で取材した。



スタジオ代わりの収録場所は大宅文庫1階の「大宅壮一復元書斎」。大宅壮一(1970年没)が生前、隣地の自宅に使っていた書斎に模して作った四畳半ほどの部屋で、現在は主に応接用に使う。壁は大宅が愛用した辞書や人名鑑などの本棚で埋められている。

番組進行役で画面に登場する放送作家・内田裕士さんが選択したものだ。内田さんは長い利用歴か

## なつかしの「武里団地」紹介

この日の前半の収録テーマは「団地」。仕込みが始まってしばらく経った午前11時30分過ぎ、ゲストのビビる大木さんが到着。正午過ぎには「どうも、どーも」と右手を振りながら関口さんが来館。スタッフの表情にも緊張感が見える。午後0時30分、収録開始。埼玉県春日部市の武里団地で育った大木さんを軸に、関口さん、内田さんの軽妙なやりとりで会話は進む。雑誌『東京人』2016年6月号に「東京なつかしの団地」として武里団地が写真入りで紹介されており、「6000戸を超すマンモス団地だったのでお祭りも盛大だった」となつかしむ大木さん。



案内役は大宅文庫の小林恭子編集委員II写真II。索引の編集歴30年以上、「3度の食事より雑誌を読むのが好き」らしい。大木さんのリクエストで地下の『ファミリーコンピュータマガジン』が全冊並ぶコーナーに行くと、大木さんは狂喜の表情を見せ、「ファミコン誌が創刊号からあるなんて！ 小学校時代、これを読まなかったら話が出来なかった」と、驚きを隠さなかった。

途中からは恒例の「書庫

(左面に続く)

# 「お宝」だらけに驚き

(右面から続く)

午後3時前、後半の収録へ。テーマは「ハワイ」。

関口さんは「ビンテージも

の」というパイナップル柄

のアロハシャツに着替え、

気分が入る。その前に到着

していたゲストの早見優さ

んもまた、緑を基調にした

「あでやかな」(関口さん)

花柄模様のワンピース姿で

二人の息はピツタリ。

生まれは静岡県熱海市だ

が、その後グアムを経て7

歳から14歳までハワイで暮

らしたという早見さん。「ハ

ワイ育ちのアイドルは、朝

からステーキを食べるスタ

ミナをつける」と書いた『週

刊平凡』1983年11月17

日号のページを見せられる

と、思わず「ワッッ!」。

実際は「(仕事に追われ)

日中、食べる時間がなく、

母が肉料理を手作りしてく

れた」そうで、「テレビが

とても元氣な時代でした」

と懐かしんだ。

『外交時報』1932年

6月15日号ではハワイ独立

論、太平洋戦争開戦直後の

『アサヒグラフ』1941

年12月24日号などからは真

珠湾攻撃の記述を紹介さ

れ、いかにもハワイ生まれ

のように見られがちな早見

さんにして「知らない、知

らなかった」雑誌情報の数

情報が豊富な「ハワイ」  
話も弾む(左は内田さん)



々に目を白黒。その後も、高嶺の花だった「憧れのハワイ航路」や、「ハワイのホテル買収」などの記事で話が弾んだ。

「書庫ツアー」はハワイ

関連の雑誌巡り。大宅文庫

には「ハワイ関連モノがい

ろいろある」という小林編

集委員が満を持して示した

一つが『ザ・ハワイ・タイ

ムス』だ。創刊は1912

年。かつてハワイで発行さ

れていた日本語新聞で、ハ

ワイ在住の日系人社会を対

象に現地のニュースや日本

の情報やコミュニケーション

の話題などを、休刊する19

85年まで伝えたという。

同じ書架には1981年

創刊の日本人観光客向け日

本語フリーマガジン『アロ

ハストリート』も存在し、

関口さん、早見さんともに

「こんなものまであるん

だ」。

午後5時前、長丁場にな

った収録はようやく終了。

大宅文庫の奥行きを広さを

改めて示した一日だった。

この収録分は7月中に順

次放映された。

## 希少価値素晴らしい 関口さん

## 一次資料ここにあり 内田さん

関口宏さん、内田裕土さんと、BS朝日で番組を担当する大木由起子プロデューサーに「雑誌の記憶」放映の手ごたえなどを聞いた。

関口宏さん「この番組の雰囲気は、大宅文庫があればこそなのだ。ここに大宅壮一がいたことが分かる。そして何と言っても文庫の希少価値は素晴らしい。これほどの雑誌を保存している。探せば探すほどお宝の雑誌が出てくる。だからストーリーも深掘り出来る。本当にすごい収蔵力だ。何としても次代へ残していかなければならない」

内田裕土さん「30年以上前、放送作家の卵の時代から番組のリーダーとしてサーチで利



内田裕土さん「30年以上前、放送作家の卵の時代から番組のリーダーとしてサーチで利

大木由起子プロデューサー「この番組は視聴者の皆さんにも好評です。再放送してほしい、という声も多々いただいています」

### 最近の番組テーマと使用した主な雑誌

#### 「マジック」(4月5・12日)

『学生』1911年8月号「手品の色々」▽『奇術研究』1956年4月創刊号▽『東洋奇術新報』1890年7月創刊号▽『女性自身』1974年3月9日号「ユリ・ゲラー」▽『現代』1990年3月号「初代Mr. マリック」

#### 「自販機」(4月19・26日)

『メカニックマガジン』1983年12月号「世界最古の自動販売機」▽『FLASH』1995年11月13日臨時増刊号「自動販売機面白変遷史」▽『暮しの手帖』1973年2月号「野放しの自動販売機」▽『財界』2017年6月20日号「自販機を活用した見守りサービス」

#### 「六本木」(5月3・10日)

『東京人』2024年12月号「俳優座劇場閉館」▽『日本』1962年6月号「変貌する夜の歓楽街」▽『料理王国』2006年5月号「香妃園の鶏煮込みそば」▽『週刊サンケイ』1961年10月1日別冊「六本木野獣会」

#### 「ジーンズ」(5月17・24日)

『サライ』2004年5月6日号「昭和の快男児・白洲次郎」▽『モノ・マガジン』2008年11月16日号「作業着からファッションへ」▽『流行通信』1988年11月号「Levi's Story」▽「ヤングレディ」1975年11月10日号「ジーンズを早くも早死にします」▽『ラピタ』2008年9月号「エドウィン ニューヴィンテージジーンズ」

#### 「白物家電」(6月7・14日)

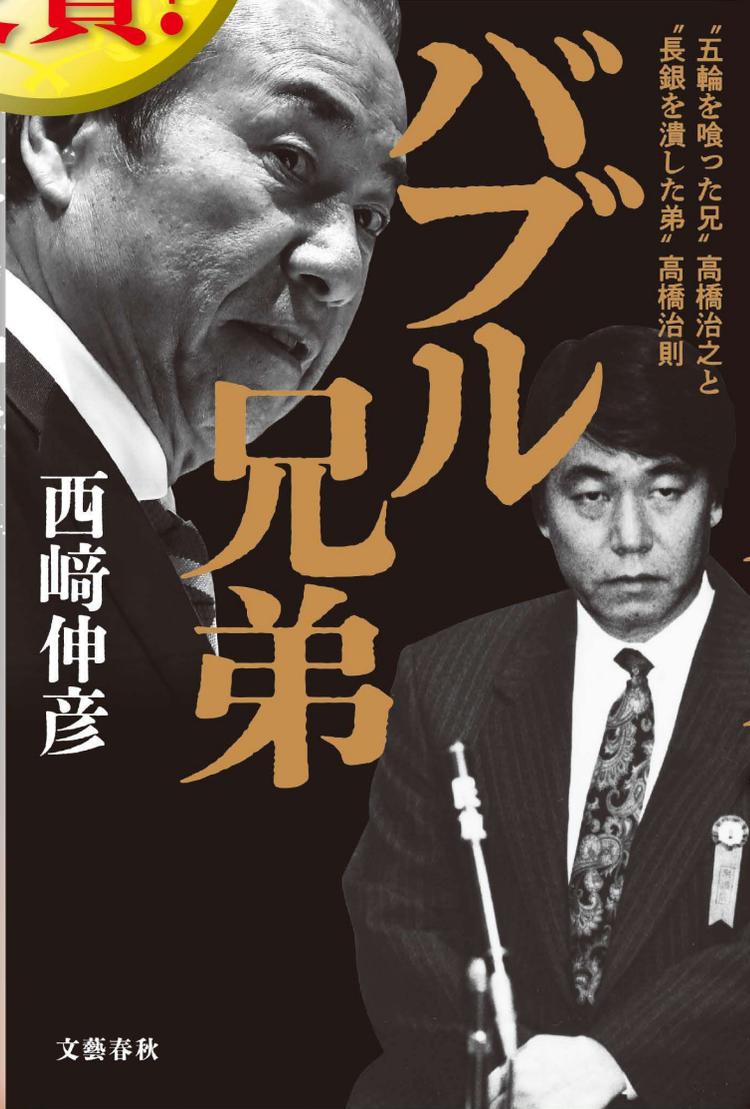
『ハルメク』2017年12月号「家事は家電でここまでラクに」▽『アサヒグラフ』1999年5月14日号「街頭テレビ」▽『ノーサイド』1995年3月号「豊かなアメリカンライフ」▽『サライ』2014年11月号「メイド・イン・ジャパンの底力」▽『暮しの手帖』1973年4月号「愚かなり わが買物」

#### 「東京の私鉄」(6月21・28日)

『東京人』1997年1月号「都電のゆく町」▽『angle』1981年3月号「私鉄沿線ぶらぶら京王線」▽『週刊朝日百科』「歴史でめぐる鉄道全路線」「私鉄全駅・全車両基地」

第56回  
大宅壮一  
ノンフィクション賞  
**受賞!**

裕福な家庭に生まれ、  
慶応から一流企業へとエリートコースを  
進んだ兄と弟。2人はなぜ、  
そろいもそろって塀の向こう側に  
落ちたのか――。



西崎伸彦

**バブル兄弟**

文藝春秋

“五輪を喰った兄”高橋治之と  
“長銀を潰した弟”高橋治則

“五輪を喰った兄”高橋治之と  
“長銀を潰した弟”高橋治則

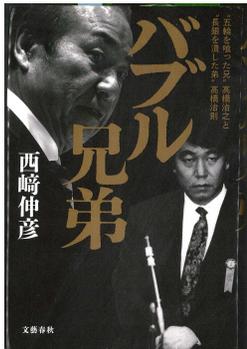
“五輪を喰った兄”高橋治之と  
“長銀を潰した弟”高橋治則

昭和が生んだ最後のアンチヒーローの実録

**オリンピック汚職事件**  
—東京五輪を利権の坩堝に変えた  
**二信組事件・大蔵接待事件**  
—狂乱のバブルに踊った

**兄弟**

●定価2310円(税込)  
電子書籍も発売中



「週刊文春」の長期連載を単行本化。24年12月第1刷。全375頁。

にしざき・のぶひこ  
1970年岡山県生まれ。立命館大学卒業。週刊ポスト、週刊文春記者を経て2020年独立、取材、執筆を続ける。

# 第56回大宅壮一ノンフィクション賞

「第56回大宅壮一ノンフィクション賞」（日本文学振興会制定）は、ノンフィクション作家・西崎伸彦さんの『バブル兄弟』（文藝春秋）が選ばれた。6月25日、都内で賞の贈呈式が開かれ、主催者らが西崎さんの優れた取材力と労苦をたたえた。

作品は副題が「五輪を喰った兄 高橋治之と長銀を潰した弟 高橋治則」。ともに慶応人脈をてこにし、1980年代のバブル景気の時代に「ひと晩で100億を動かす男」とまで言われた弟と、スポーツビジネスの世界に君臨した兄の「成功と挫折」の軌跡をまとめ



受賞の喜びを語る西崎さん

## 狂乱の果て「成功と挫折」 西崎さん取材の深さ光る

### バブル兄弟

“五輪を喰った兄” 高橋治之と  
“長銀を潰した弟” 高橋治則



大宅理事長と歓談する

受賞のあいさつに立った西崎さんは、「24歳で週刊誌の記者になり、25年間、あきらめの悪さみたいなもので記者を続けてきた」と出席者を笑わせながら、「い

### 「受賞身が引き締まる思い」

上げた。贈呈式では、西崎さんに正賞（100万円）と副賞（国際線往復航空券）が贈られた後、選考委員会を代表して第52回の受賞者でも

ろいろな人に背中を押してもらい、いい経験をさせてもらった」と周囲への感謝を示した。今後については、「大宅賞の重みは誰よりも理解しているつもりで、身が引き締まる思いだ。出来る限りこれが私だ、という作品を出し続けて行きたい」と力強く語った。式後は大宅文庫の大宅映子理事長ら大勢の出席者と歓談。大宅理事長は「分厚い本だが、一気に読んだ」と明かし、今後の活躍に期待を示した。

ある石井妙子委員が審査評を述べた。石井委員は冒頭、前篇を貫く確かな事実関係の蓄積に触れ、「大変深い取材に基づいた作品だ。読み物として面白い。その面白さの支えになっているのが西崎さんの取材力だ。短い数行のためにどれだけの取材を重ねたのか」と評価。さらに「読み進めるうちに線と線が重なり、日本社会の裏の部分に気づかされる。機（はた）を織るにしたがって、そこに図柄が描かれるのに似た、見事な作品だ」とたたえた。

専門図書館の蔵書管理・検索サービスなら

「情報館」



ブレインテック

株式会社ブレインテック  
https://braintech.co.jp/



# 「そーいち」さん&「えいこ」さんの仮想対談

## 「時代の肌触り」伝える役割

大宅壮一文庫は来年、開館55周年を迎えます。デジタル社会が急速に進展する現代にあって、雑誌文化を次代に継承して行くために大宅文庫が期待されているものは何か。その期待にどんな手段で応えるのか。奇抜ですが、生成AIに設問を投げかけ、仮想空間で「そーいち」と「えいこ」さんの対談を試みました。AIが描いた大宅文庫の未来像とは――

(事業課主任・岡 知幸)



ChatGPT作成

(静かな書庫。窓辺には春の日差しが差し込む。そーいちとえいこは、重厚な木の机を挟んで向かい合う)

えいこ「そーいちさん、やっぱり思うんですよ。AIやインターネットがこんなに発達した今、『文庫』なんて古臭いって思われているんじゃないかって」

そーいち「それは否定できないね。世の中は、情報の即時性と手軽さに慣れきっ

てしまった。スマホひとつで大抵のことは片付く。でも、だからこそ、大宅壮一文庫の価値は、むしろこれから問われると思うんだ」

えいこ「問われる…。それって、期待されてるってことでもある？」

そーいち「もちろんだよ。ただ、それは単なる懐かしさにすぎることじゃない。人々が本当に大宅文庫に期待しているのは、情報の海に溺れかけている現代で『本物の記録』にアクセス

できる場であり続けることだ」

えいこ「本物の記録。データベースにはない『肉厚な記録』ってやつですね」

そーいち「その通り。デジタル情報は便利だけど、どこか表層的になりがちだ。情報の深みや、当時の空気感までをまとった資料――雑誌、記事、評論、インタビュー。そういうものを丁寧に収集・保存し、手渡す役割が文庫にはある」

えいこ「つまり、大宅文庫は、単なる昔の雑誌の倉庫ではなくて、『生きた時代の証人』みたいな存在になるべきだよ」

そーいち「うむ。情報を単なるデータとして扱うのではなく、『時代の肌触り』と伝える――そこに人々は、かすかな憧れと期待を寄せているんだ」

えいこ「しみじみと領きながら」

「でも…その期待に応えるには、何を、どこから始めたらいんでしょう？ 予算も人手も潤沢じゃない現実もありますし」

そーいち「ふふ、そこが知恵の出どころだね。無理にハイテクに走らずとも、やれることはたくさんある。次は具体的に一つずつ考えていこうじゃないか」

(えいこがにっこり笑い、メモ帳を手取る)

## 「信頼できる情報源」「使いやすさ」

そーいち「僕が思うに、第一に求められるのは信頼できる情報源であることだろう」

えいこ「確かに…今は、フエイクニュースやら、AIが作った怪しい記事などで、何を信じていいかわからない時代ですもんね」

そーいち「そう。そんな中で、大宅文庫はかつての一次資料――きちんと発行さ

れ、編集され、責任の所在が明確な雑誌記事を蓄積している。これは、軽視できない強みだ」

えいこ「つまり、文庫はちゃんと裏が取れる世界を守っているわけですね」

そーいち(微笑しながら)「第二に求められているのは使いやすさだと思う。今のネット世代は、2クリック以内で情報が届かないも

のなかったことにされるぐらいの覚悟が必要だ」

えいこ「耳が痛い…けど、現実ですね。でも、またシステム改修とか言ったら、莫大なお金がかかるんじゃないですか？」

そーいち「そう、だから小さな改良を積み重ねるのが現実的だ。例えば――」

(そーいちが指を折りながら具体的な案を挙げ始める)

## 生成AIが描く大宅文庫の未来像

### 【ChatGPTへの設問内容】

AI、インターネットが社会の大宅壮一文庫に真に期待するべきところとは何か。架空の「えいこ」と「そーいち」の対談を生成AIに依頼し、大宅文庫の未来像を描いてください。

# 眠る宝物掘り起こせ

(右面から続く)

そういち「まず、初めての人向けの検索ガイドをウェブサイトにやカウンターで提供できるだろう」

えいこ「例えば？」

そういち「何をお探ですか？ みたいな簡単なチャート形式のガイドを用意するんだ。《著名人の発言を探したい↓人名検索へ》《事件やことがらを探したい↓件名検索へ》などと、慣れ

ていない人が迷子にならない工夫をする」

えいこ「ああ、それならスタッフの知恵と労力でできそうですね」

そういち「それからもう一つ。地味だけど効果的なのが、発掘展示だ」

えいこ「展示って：いわゆる企画展みたいな？」

そういち「そんな大掛かりなものじゃない。もっとシンプルに、手に取られるこ

とが少ない雑誌をカウンターの横やホームページに『今月の掘り出し物』みたいな形で紹介するんだ」

えいこ「そうか。Web OYA・bunkoの情報が大宅文庫のすべてだと思

っている人もいるけれど、実際は検索に引つかからない雑誌の方が多い」

そういち「そうそう。これも、既存の蔵書を活用するだけだから、コストはほと



「宝物」で埋まる大宅文庫書庫。AIは「掘り起こし」を求める

んどかからない。むしろ、文庫に眠っている宝物を掘り起こす作業になる」

えいこ「それにしても、今って、どんなに素晴らしいものを持っていても、黙っていたら存在しないもの扱

## 80万冊の強みをどう生かすか

生成AIが文章化したこの大宅親子仮想対談、みなさんどう感じられただろうか？

人類が生む最後の大発明などといわれるだけあって、AIは瞬時に大宅文庫が生き残る道を探り出し、具体策を示している。「もつと外に向けた発信力」はそのひとつで、指摘を受け今年度から広報専門職員を配属した。

また「大宅文庫の価値はこれから問われる」「生きた時代の証人になるべきだ」などは、職員が大宅文庫で働く意味と使命感を再認識する効果があったようだ。が、一方でAIは両刃の剣でも

ストが毎回楽しいトークを繰り広げている。書庫に入ってお目当ての雑誌を手にしたゲストが「あつ、これだ！この雑誌が私の青春だったんだ」などと感激する場面もあり、何ともほほえましい。

人はだれでも古きよき昔をなつかしみ、いとおしく思う。多感な青春時代に愛読した雑誌を手にする、記憶が鮮やかに蘇る。無機質なAI記事とは、ここが決定的に違う。記事だけでなく表紙やグラビアページ、広告も一緒にタイムスリップしてくれるのだ。AI時代だからこそ、現物が価値を持つ。まさに「大宅文庫の価値はこれから問われる」ことを、皮肉なこと

強い助っ人が現れた。BS朝日で昨年10月から毎週土曜日午後4時から放送されている「関口宏の雑誌の記憶」である。当文庫所蔵の80万冊の雑誌から選んだ喫茶店、都市伝説、電話、温泉などの興味深い記事を素材に、関口さんとゲ

鳥山輝

大宅壮一文庫専務理事

### 「特別貸し出し」プロジェクト案

えいこ「発信だけじゃなくて、文庫ならではの『ここだけの体験』も作りたい」

そういち「それなら、小規模な特別資料貸し出しプロジェクトを試してみるといいかも」

えいこ「貸し出し？ 文庫は原則、閲覧のみですよ」  
そういち「だからこそ、だ。当然、傷みや盗難のリスクも考えないといけない。でも、それを恐れて出し惜しみばかりしていたら、宝物

えいこ「SNSとかYouTube

いされる時代ですよ」  
そういち「まったくだね。情報発信は、今や生存戦略の一つになっている。大宅壮一文庫も、もつと外に向けた発信力を意識しないといけない」

えいこ「なるほど、それなら派手じゃないけれどジワジワ効く発信になる。むしろ地味だけど、ちゃんと考えているって文庫らしい気がします」

えいこ「派手な見栄えより、静かな信頼——それが文庫の矜持だからね」

は知られないままで」  
えいこ「(領きながら)「出すべきものは出す。守るべきものは守る」

そういち「そう。大宅壮一が生きていたら、きっとこう言うだろう。『情報は使われてこそ生きる』とね」

えいこ「時代に背を向けるわけじゃない。ちゃんと世の中を見つめながら、文庫らしい速度で歩く。そう

いちはさん、私、ちよつと楽しみになってきました」  
そういち「うん、僕もだ。大宅文庫はまだまだこれくらいだよ」

# 支援の輪 広く深く

## 24年度 寄付額 2年連続1000万円超

### 法人会員最多18 個人会費は最高額に

大宅文庫の運営を善意で支えてくれている「大宅文庫パトロネージュ」事業は、2024年度も安定して推移しました。企業・団体と個人から寄せられた会費の総額は1054万円で、前年度（1125万円）に続き2年連続の1000万円超えを達成しました。法人の会員数は18社で前年度より1社増えてこれまでで最多。個人会員は前年度の128人から132人に伸びたのに加え、大口の寄付が目立ったことから全体額は過去最高に。全国からの支援の輪が一段と広がっていることを裏付ける結果になりました。

2019年度にスタートしたパトロネージュ事業は24年度で6年目。コロナ禍などもあって一時は低迷しましたが、23年度から上向き始めた流れが、多くの方

◆大宅文庫パトロネージュ  
「パトロネージュ」は英語・仏語で「支援」の行為を意味する。大宅文庫の立て直しの一助とするため2019年度に発足。幅広い個人や企業・団体に参加してもらい、会費（寄付）を募っている。

### 大宅文庫パトロネージュ

の善意に支えられ堅調であることを示しています。法人会員は、大宅文庫が雑誌の専門図書館であることを反映して18社中8割強

の15社までが出版関係の企業で占め、このうち4社が新規に加わりました。日本雑誌協会（宮原博昭理事長 正・賛助会員90社）が24年度から大宅文庫の賛助会員になり、支援姿勢を鮮明にしたことなども追い風となり、業界全体でも理

### 「遺贈」積極受け入れ

「レディーフォーと提携 相続財産寄付も

大宅文庫は、パトロネージュとは別枠で「遺贈」の受け入れに努めています。レディーフォー専門機関「R

解が深まったとみられます。個人会員は新規が2割近い24人。男女別では男性が102人（77%）、女性30人（23%）。地域別では都内在住の方が61人と最多で、首都圏3県（千葉・埼玉・神奈川）の35人を含めるとこの4都県だけで全体の7割を大きく超えます。会員ゼロが22県と半数近くにも及んでおり、首都圏や関西圏以外への浸透が今後の課題です。

左面の別表は24年度の個人会員が申し込みの際に書き添えてくれたコメントの一部です。ご覧の通り、どの文面からも大宅文庫に対する熱い思いが伝わってきます。こうした方々の期待にこたえるためにも、大宅文庫は未来への継承を目指し一層の努力を怠りません。1人でも多くの今年度のパトロネージュへのご参加をお待ちします。

EADYFOR（レディーフォー）株式会社」と連携し、今年度からは新たに「相続財産寄付」の呼びかけにも取り組みます。

「遺贈」は遺言書に基づき、遺産の一部またはすべてを指定先に寄付する行為です。一方、「相続財産寄付」は、相続や遺贈を受けた人がその一部またはすべてを寄付する行為であり、寄付した財産は、相続税が非課税となる特例があります。

皆様からのお問い合わせや、実際に遺贈、相続財産寄付を決意された方のお申し込みはレディーフォー（④案内ご参照）で受け付けます。



大宅文庫への「遺贈」承ります

READYFOR（レディーフォー）株式会社（東京都千代田区・資本金1億円）は、2021年4月より「レディーフォー遺贈寄付サポート」を開始し、これまでに生前寄付・遺贈寄付のご相談を1500件以上受け付け、サポートを実施しています。大手金融機関などでさまざまな相続・遺言のご相談にのってきた担当者が、いつでも無料でお応じます。終活全般のご相談も承っておりますので、ご寄付の意向や詳細が決まっていない方も、まずはお気軽にご相談ください。

レディーフォー遺贈寄付サポート窓口

お気軽にご連絡ください

**0120-948-313**

受付時間：平日10時～17時（年末年始を除く）

ホームページはこちら

レディーフォー 遺贈寄付

# 応援の声続々あなたもご参加を

## 2024年度 個人会員から寄せられた大宅文庫応援コメント

- ・紙の雑誌は活字と絵と写真と香りと手触りで、記事の内容をデジタルを使わずにずっと伝えてくれる。(京都市・60代男性)
- ・デイリーポータルZを見て知りました。応援させてください。(佐賀市・40代男性)
- ・図書館員や大学教員としていつもデータベースを活用させていただき大宅文庫の活動を応援しています。(千葉県・60代女性)
- ・社協の昭和クイズに参加してとても楽しい時間を過ごした。(東京・60代女性)
- ・雑誌はその時代を反映する貴重な文化遺産だと思う。運営に係られている皆様の努力と貢献に感謝。(群馬県・70代男性)
- ・利用頻度は少ないが、他にない貴重な資料だと思っている。(川崎市・50代男性)
- ・本や雑誌、新聞などの紙媒体が失われていきつつあるこの時代に、雑誌を保存、死守している。生き残りのお手伝いの末席に加えていただければ幸い。(埼玉県・70代女性)
- ・雑誌の世界が好き。文庫が未長く存続しますように。(千葉県・60代男性)
- ・文庫の意義は大きく、色あせるものではない。むしろネット上の情報が呼び水となって、深く知りたい人には価値が高まっていくのではないか。(東京都・50代女性)
- ・大宅文庫の存在を若い人たちはまだまだ知らないだけ。ぜひ若い人たちに雑誌の面白さ、素晴らしさを味わってもらいたい。(神奈川県・40代男性)
- ・様々な取り組みに敬意を表し、心より応援しています。(東京都・60代男性)
- ・雑誌編集部在籍時代にはたいへんお世話になりました。最近、娘の自由研究のために訪ね、スタッフの方々から愛を感じました。改めて存在の大きさを感じ支援の列に加わりました。(東京都・60代男性)
- ・現代史の研究者にとって欠かせない存在です。(京都市・50代男性)

### 24年度パトロネージュに参加された方々

【企業・団体】 一迅社▽河出書房新社▽講談社▽財界研究所▽集英社▽小学館▽西武鉄道▽大日本印刷▽竹書房▽白泉社▽日本文芸社▽ぴあ▽富士化学塗料▽双葉社▽文藝春秋▽ホーム社▽マジジンハウス

【個人】 野村 隆二▽羽田 忠彦▽渡辺 喜満▽石黒 充▽新保 信長▽三浦なつみ▽武田 徹▽福田 勝樹▽佐藤 正恵▽阪本 博志▽麻田 真▽大塚 秀郎▽山崎 進▽10太田 治子▽橋場 一郎▽梅田 純一▽稲田 寛▽青木 宏導▽桃井 恒和▽竹中富知男▽櫻井よしこ▽松田 安子▽永田 裕之▽国松 春紀▽小堀桂 一郎▽森 義真▽木俣 正剛▽石井 謙一郎▽林 真理子▽佐久間一政▽吉成 敏夫▽関川 夏央▽矢島 康吉▽野間 省伸▽和田 隆次▽村上 公子▽池澤 夏樹▽高山 謙司▽本間 啓示▽佐藤 裕二▽宮崎 壽子▽中島 昌喜▽富田 明生▽椿 靖子▽井上 和明▽塚本 浩史

小池真理子▽末永 汎本▽奥山 脩二▽矢嶋 功作▽会田久仁夫▽渡辺 久利▽渡辺 明子▽鳥山 輝▽小林 一▽吉岡ゆかり▽今井 孝▽黒井 昭典▽安井 厚児▽山本紀美子▽高橋 岳二▽三好 隆弘▽高橋 芳照▽佃 龍二▽古賀 信行▽深田 浩之▽佐藤 直由▽二之湯 智▽山口 俊明▽新田 貞章▽加藤さやか▽龍井 郷二▽塚本晴二朗▽東山 健▽若林マスコ▽佐藤 和宏▽柴田 正明▽三木哲男▽西川 盛朗▽中村 美穂▽紺野 浩▽佐々木靖章▽脇 雅俊▽阿達 実花▽小野寺寛晃▽熊谷慎一郎▽北村 隆人▽岡田 基志

敬称略公表を了承された方のみ掲載

### 問い合わせ

TEL030-3306-4661  
大宅文庫パトロネージュ係



### 募集対象

大宅文庫を次代につなぐとする「大宅文庫パトロネージュ」の趣旨にご賛同いただける企業・団体と個人の皆様。業種、個人の国籍・性別などは一切問いません。

### 会費

年会費としていただきます。会員様のご意思に基づき、毎年のご更新制です。▽企業・団体様 10万円〜50万円 / 100万円以上など。▽個人様 1〜3万円 / 5万円以上 / 10万円以上 / 1

### 申し込み

00万円以上。(特典に差異があります)

◆Web専用フォームから大宅文庫ホームページ内の「パトロネージュ専用申し込みフォーム」をご利用ください。

### 郵送・ファクス

◆「支援参加申込書」に氏名など必要事項を記入して左記にご送付ください。申込書はホームページからもダウンロードできます。

【送付先】〒156-0005 東京都世田谷区八幡山 6-10-20 大宅壮一文庫経

### お支払い

オンラインクレジットカード決済(個人向け)、銀行振込、郵便振替の3パターン。ご都合に合わせてお選びください。

### 特典・お礼

支援をいただいた方には各種特典やお礼を用意しています。

- ①機関誌送付(年1回)
- ②ホームページ・機関誌にご芳名掲載(了承者のみ)
- ③文庫入館料無料(が共通特典です。個人様向けにはさらに支援金額に応じて、Web OYAbunkoの利用権(※索引表示料金は課金されます)のほか、名刺や「研究員」などの肩書を進呈します。

### 税控除などの対象に

内閣府認定の公益財団法人である大宅文庫への寄付や遺贈などは、所得税の控除や相続税の優遇措置の対象になります。都、世田谷区在住の方は都・区民税の控除も受けられます。

時代を映す「雑誌」で読み解く明治・大正・昭和・平成・令和の世相

# 雑誌記事索引データベース Web OYA-bunko

会員版

教育機関版

公立図書館版

収録期間 150年！雑誌記事検索&レファレンスツールの決定版！

簡単検索	
	フリーワード検索   調べたい内容で自由に検索
大宅社一文庫がつくった項目やキーワードから検索	
	人物   人名項目から検索
	職業   職業・会社名・所属団体名が同じ人物を一覧表示   候補から選んだ人物を検索
	職業分野   17のカテゴリから選択   選んだ職業分野に含まれる人物をまとめて検索
	ことがら   事件や世相風俗など物事・出来事をキーワードから検索
	分類体系   ことがらに関する大・中・小の件名項目とキーワードから検索
雑誌検索	
	雑誌名   雑誌名を指定して検索
	雑誌ジャンル   54のジャンルから選択   選んだ雑誌ジャンルに含まれる雑誌をまとめて検索

\*収録データ\* (2025年8月現在)

収録期間：1888年～最新情報  
収録記事索引件数：約755万件  
収録タイトル数：約2100誌  
データ更新頻度：毎日（日・祝を除く）  
データ更新件数：年11万件



## フリーワード検索

- ◇直感的操作で調べたい内容を簡単に検索可能
- ◇論理検索を使えば複雑な条件の検索も可能
- ◇グラビア・インタビュー・対談など記事種類や発言者の指定も可能

## 人物 職業 職業分野

- ◇16万人の人物を収録
- ◇同姓同名の人物を区別
- ◇家族・人脈・趣味などの記事内容で検索可能
- ◇職業・会社・所属団体から人物一覧表示可能
- ◇経営者・政治家など職業分野を指定して一括検索可能

## ことがら 分類体系

- ◇7万件のことがらに関する独自のキーワードから検索可能
- ◇分類体系（大宅式分類法）で詳細な検索も可能

## 検索結果 記事掲載雑誌面の複写サービス

- ◇記事タイトル、発言者（執筆者）、雑誌名、発行日、掲載ページ、分類項目と付与したキーワードを表示
- ◇見出しにはない記事の要点を補足情報として付与
- ◇導入環境に合わせた記事誌面コピー申込フロー搭載

## 雑誌名 雑誌ジャンル

- ◇明治から現在まで150年の様々な雑誌を収録
- ◇週刊誌からファッション誌、アニメ雑誌、スポーツ雑誌など多ジャンルの雑誌収録

## おすすめPOINT!

大宅社一文庫データベース担当より

### 大宅式分類法 ～雑誌記事索引作成と記事索引データベース～

ジャーナリストの大宅社一は資料とする雑誌記事を索引化し、それらを素早く探し出すため、人物情報についての「人名索引項目」と、事件・事項についての「件名索引項目」に分類整理する作業を、昭和27年頃からはじめました。特に件名索引項目は、世相を反映したジャーナリストックで実用的な分類が特徴的です。Web OYA-bunko収録のデータは、現在もその手法を継承してつくっています。熟練スタッフが雑誌記事一つひとつを実際に読み込み各項目に分類、キーワードや補足情報を付与しているため、見出しの文字列を単純に検索する方式より上質なデータを入力することができます。

雑誌の図書館 magazine library



- ◇日本初の雑誌専門図書館です。
- ◇Web OYA-bunkoに収録されている雑誌はすべて所蔵しています。
- ◇東京都世田谷区八幡山3-10-20
- ◇03-3303-2000



# TRCは、 図書館総合支援企業です



わたしたちは図書館を「人類の英知を未来へと生かす知識と情報の宝庫」と考えます。その図書館を利用するすべての人々が、教養を深め、自らの課題を解決し、心身ともに健康な市民として自立し、働き、暮らすことで地域が活性化します。わたしたちの使命は図書館サービスを通して地域社会に貢献することです。

## 図書館の基盤を支える

### TRC MARC<sup>®</sup>

図書館のための書誌データベース  
全国の公共図書館の89%が利用



## 在庫・装備・納入の図書館インフラ

### 装備付き図書物流システム

埼玉県新座市と  
福岡県久留米市の  
物流拠点



## 図書館を支える運営

### 全国の公共図書館と学校図書館、専門図書館の受託運営

指定管理者制度に基づき、住民サービスの質の向上を図りつつ、多様化する住民ニーズに応え、効果的・効率的に図書館を運営。

地域の資源を支えている全国の図書館1館ごとに併せたサービスメニューの提案を行い、地域に密着したサービスを展開。



©Kazuki Nishiyama



TRCは、Web OYA-bunko公立図書館版の販売代理店です

## 株式会社 TRC 図書館流通センター

〒112-8632 東京都文京区大塚1丁目1番1号 <http://www.trc.co.jp/>

# 「がんばれ雑誌」企画 充実パワーアップ

## 雑誌展示＋講演会に

雑誌の面白さを社会に再認識してもらおうと、大宅文庫が毎年度展開している「がんばれ雑誌」企画シリーズ。今年度は従来のテーマごとの雑誌展示型から、著名な出版関係者による講演をプラスした内容にパワーアップする。初

回は7月12日に館内で雑誌『anan』の講演会を開催。10月18日には東京・大手町で、女性たちに思い出深い少女小説『コバルト』のトークショーを開く。カリスマ作家の新井素子さん、桑原水菜さんを招いてのファン待望の企画だ。

# 10月『コバルト』講座

## 新井素子さん、桑原水菜さん迎え

東京・大手町で



少女たちに親しまれた『コバルト』雑誌の数々



新井素子さん  
撮影：中央公論新社



桑原水菜さん



嵯峨景子さん

10月の講座タイトルは「新井素子と桑原水菜が誘う『コバルト』の世界」。少女小説の研究をライフワークにする書評家の嵯峨景子さんが進行役を務め、ラ

イトノベル作家の草分けとして広く知られる新井素子さんと、『コバルト』出身作家である桑原水菜さんとともに、懐かしい「あの時代」を語り合う。執筆の裏話や当時の『コバルト』の様子など、ここでしか聞けない話で楽しめそうだ。出版元の集英社が協賛、大宅文庫の企画を基に読売・日本テレビ文化センター（よみうりカルチャー）が運営実務を担当する。会場は大手町・読売新聞東京本社3階の新聞教室（よみうりカルチャー大手町教室）。当日の開催時間は午後2時～同3時30分。この講座に連動して、大

宅文庫は10月14日～11月15日、東京都・八幡山の同館2階で『コバルト』雑誌など300冊を展示して読み放題にするイベントを開催。トークショー当日は、会場に約50冊を展示する。トークショーの申し込み・問い合わせは、よみうりカルチャー（TEL 03・3642・4301）。雑誌展示の問い合わせなどは大宅文庫（TEL 03・3303・2000）へ。

## 24年度館内で 4雑誌展開催

「がんばれ雑誌」シリーズは24年度、4テーマで実施した。①「思い出の少女雑誌展」（7～8月）

②「アニメ雑誌大公開」（9月）③「MLB輝く侍展」（11～12月）④「明るい皇室展」（25年3月）——で、各回400～1500冊の関連雑誌を展示。すべて手に取って読めることから、毎回来館者に喜ばれた。



講演する富川さん

## 『anan』講演会大盛況 富川さん体験談熱つぼく

シリーズ初の講演会は前日本出版学会会長の富川淳子さんが講師。一時期『anan』（マガジンハウス）の編集長を務めた関係から「元編集長が語る 日本の女性の背中を押した『anan』」のテーマで、女性を

中心に受講に訪れた40人余を前に、日本の女性ファッション誌を牽引した同誌の歴史などを紹介した。話は「セックス特集」にも及び、富川さんが当時として特集名を大声では口に出せなかった苦労話など

を熱つぼく語ると、会場は大盛り上がり。八王子市から訪れた30代の女性は「とても刺激を受けた。自分が70年代の女性ならどうなっていたんだろうなどと考えるきっかけになりました」と興奮気味に話していた。

「1000冊展」併催  
今回の『anan』企画は同誌が今年で創刊55周年



から95年末までの1000冊を展示し写真展。すべて大宅文庫の収蔵誌で、訪れた『anan』ファンの女性たちは「とても読み切れない。すごい！」と大喜びだった。8月末まで。今年度は「雑誌展示＋講演会」形式の企画を3回予定。最終回は年明けに予定している。

# 増えるマスコミ取材

## 24年度15件「大宅文庫」全国に発信

大宅文庫へのマスコミ取材と報道が増えている。テレビ・新聞などによる全国や地元への発信増で、雑誌文化を守る大宅文庫の認知度がさらに高まること期待される。

2024年度1年間に大宅文庫が取材を受けたのは、新聞・テレビや出版社を中心に15件余。開館50周年で注目が集まった2021年前後に並ぶ勢いだ。昨秋には日本経済新聞が、大宅文庫主催の「迷宮書庫探検ツアー」に参加して取材。11月1日朝刊の東

京・首都圏経済面に5段組みで書庫や雑誌群の紹介記事を掲載した。見出しは「雑誌のみ80万冊ぎっしり」「索引で言葉の変遷をつなぐ」。この日のツアーにはイラストレーターの小迎裕美子さんらも参加しており、雑誌『美的』（小学館）今年1月号の見開き面「脱力道

場」で、「図書館の迷宮深場」に入り込みときを超えての思い出トリップ」と題し、漫画のカラーイラスト



ちなみに2001年「美的」創刊号には「コイールスノー」誕生特集がありました。ときを超えての思い出トリップ

と記事で大宅文庫を楽しく紹介した(㊤II抜粋)。書庫ツアーは大宅文庫が毎月第2土曜日に参加無料で開催している名物企画だが、取材がてらに利用するマスコミ関係者も目立つ。地上2階から地下2階までの雑誌で埋まる書庫内を迷路のような導線めぐると、参加者は一様に感嘆の

声を上げる。年末から今春にかけては、読売新聞、毎日新聞が相次いで取材。読売新聞は1月20日の文化面・昭和100年企画で「雑誌文化に彩られた時代」を書庫写真付きで紹介した。毎日新聞は館内で開催中だった「明るい皇室」展の記事と写真を、3月14日朝刊・東京面で大きく掲載。「新聞で知った」という地元の人たちがさっそく来館した。

報道による同様の効果はインターネット・コンテンツでも表れ、デイリーポータルZが昨年5〜6月に「80万冊の蔵書」と「雑誌記事索引」を2回にわたって報道。これを見て大宅文庫の支援会員組織・パトロネージュに参加してくれた人もいた。

## 大宅文庫インフォメーション①



看板前で記念撮影

## 大宅文庫に「寄り道旅」

### 徳光さん一行 索引冊子に笑顔

テレビ朝日系で毎週日曜日に放映されている人気旅番組「路線バスで寄り道の旅」の徳光和夫さん一行が5月7日、世田谷区八幡山の「大宅文庫本館」を訪れ、番組の収録を行った。この日のゲストはタレントの松村邦洋さん。松村さんは若い頃から大宅文庫をよく利用し、収蔵している雑誌を読んでせりふの勉強などをしていったという。この日は2階閲覧室で徳光さんと長嶋茂雄さんの対談記事などを松村さんが読んでいるところに、徳光さん、アシスタントの田中律

子さんと撮影スタッフらが合流。雑誌の思い出話に花が咲いた。大宅文庫のデータベース「Web OYAbunko」で過去の雑誌記事の索引を徳光さん、松村さん、田中さんの名で検索すると、それぞれのデビュー後のインタビューやグラビアなど多数の記事がヒットする。文庫の担当者が、その中から各300件の記事索引をコピーした冊子を来館の記念に3人にプレゼントすると、徳光さんらは持ち前の満面の笑顔で喜んで

## 専大「出前講座」9月から15コマ

大宅文庫が、専修大学文学部ジャーナリズム学科で毎年度実施している「雑誌ジャーナリズム論」出前講座の2025年度の内容が決まった。9月25日から26年1月22日までの木曜日に全15コマを開講する。5回目の今年度も強力な

講師陣が勢ぞろい。雑誌とコミックエッセイの二刀流でヒット作品を創出した松田紀子さん、大宅賞受賞のノンフィクション作家・森功さんらをはじめ、出版社の協力で各誌の編集長クラスが登壇し、ジャーナリズムの現場の息づかいを学生たちに伝える。初回と1月の3回は大宅文庫の専門職員が講義する。

大宅 壯一



X



川端 康成

# 2巨星企画展

## 10月18日～12月7日開催

### 大阪・茨木市 川端文学館

大阪府茨木市の旧制茨木中が生んだ昭和の文壇と論壇の2巨星・川端康成氏(1899～1972)と大宅壯一(1900～1970)にスポットを当て、生涯の友人だった両氏の関係を紹介する特別企画展「川端康成・大宅壯一と旧制茨木中学校」の開催計画が決まっ

た。今年10月18日(土)から12月7日(日)まで茨木市の同市立川端康成文学館で、館内をフル活用して行われる。

大宅側の主な展覧物は、大宅の死去時に川端氏が自ら墨書し葬儀で読んだ弔辞原本(大宅文庫収蔵、幅2・3寸)や、大宅が在学中

大宅文庫インフォメーション②



に1字1字丁寧に記した貴重な「茨木中学校生徒日誌」

などII写真II。これらは大宅文庫が期間中に限り貸し出す。

展示室には「マスコミの王様 大宅壯一」の特設コーナーが設けられ、大宅の生涯と業績を写真や書籍で紹介する。2人に触れる文学講座も期間中に開催され、講師の1人には阪本博志帝京大教授(大宅文庫学術顧問)が予定されている。

川端氏とその3学年下の大宅は、中学在学中は目立った交流はなかったが、東京帝国大学の学生を中心に

## 大宅文庫賞 2人を表彰

### 調べる学習コンクール

公益財団法人図書館振興財団が主催した第28回「図書館を使った調べる学習コンクール」で、優秀賞「雑誌の図書館 大宅壯一文庫賞」に愛知県・愛知淑徳高2年の大野紗季さんと兵庫県黒田亮二さんが選ばれた。25年3月、都内で開かれた表彰式で大宅文庫の鳥山輝専務理事から盾などが贈られた。

大野さんは「伝統工芸品が今後、発展していく可能性はあるか」と題し、伝統工芸品のインターネット販売などによる再興策を提案。黒田さんは「川本幸民の『電気』と『磁石』」のテーマで、明治期に最初の理科教科書にもなった川本幸民『気海観瀾広義』を基に当時の電気(エレキテル)の状況や応用の背景などを考察した。

## 雑誌に温故知新あり

古い雑誌の索引採録していると、記事の中にびっくりするような言葉や事柄に出合うことがあります。

最近、科学雑誌で発見した「石油タンパク」もその一つ。調べてみると石油を微生物に分解させて作るタンパク質のことで、まさに今時話題の代替食品につながる話らしいのですが、その世界に縁もゆかりもない筆者にとっては、はるか未来のテーマのよう。ところが何と1970年、半世紀以上も前の雑誌で取り上げられていたのです。この道30年にして初めて知りました。しかも、しかもです。この



週刊新潮1979年2月22日

雑誌だけのキワモノ記事かと疑って検索したところ、すでに当文庫の記事索引の小項目に当時からの15件もの索引が存在していることも分かりました。

雑誌に掲載される新しい技術の中には、実はほかにもずっと昔に既に書かれたものが結構存在します。雑誌にも温故知新あり——。



編集委員 小林 恭子 2025

## 悩ましさ多けれど...

これまでの当欄でも「日々困惑日記」をたびたび紹介してきましたが、雑誌記事の索引を分類する作業は本当に悩ましさの連続。私たち索引チームのメンバーは皆等しく、毎日雑誌を読んで「うーん、うーん」と唸りながらパソコンとにらめっこをしているのです。

以下はある日の協議事例です。

「東北にできた放射光の新しい施設のナノテラスってどこに分類する?」「嬰兒(えいじ)って生後いつまでかな」「超ときめき宣伝部」って、名前の中にハートマークが使

われてるけど、抜いていい?」(人名に通常、記号は入れないルールなのです)

これが日常です。毎日こんな質問が飛び交う職場って、他にはないでしょうね。

筆者が科学雑誌から粒子力学の記事を採録している隣で、他のメンバーは女性週刊誌から猟奇殺人の事件を採録中。あるいは連合政権構想の記事を採録している人の隣でシニア向けの「ナンパ必勝法」の記事を採録。ウソのような内容が扱う雑誌記事のデータベースならでは。ホント雑誌って面白い。だからこの仕事、いくら、悩ましくともやめられません。

大宅文庫インフォメーション③

24年度決算

2年連続黒字化達成

公益財団法人大宅壮一文庫(大宅映子理事長)は6月、今年度の評議員会と理事会を開き、2024年度決算報告を承認した。経常収益(収入)は、1億7266万円、経常費用(支出)は1億7070万円で、少額ながらも黒字を計上した。

黒字決算は23年度に続いて2年連続。複写サービスや雑誌記事索引利用などの資料提供料は減収が続いたが、基本財産運用益が前年度の2倍近くまで伸び、黒字化に大きく貢献した。

雑誌記事索引データベース・Web OYA-bunkoの利用契約数は、国内外の大学を中心とした教育機関版が119機関で、国内のみ3機関減。公立図書館版は28機関で増減なし。会員版は法人が5部署(1部署増)、個人会員は143人(5人増)。今期の役員

の異動はなかった。

公益財団法人大宅壮一文庫役員

- 理事長 枝廣(大宅)映子(評論家)
専務理事(業務執行理事) 鳥山 輝(元中央公論新社会長)
理事 飯窪成幸(文藝春秋代表取締役社長)
評議員 阿川佐和子(エッセイスト)
監事 有馬 学(九大名誉教授)

初めての方へ

大宅文庫の使い方ポイント

どう使う 何ができる?

ジャーナリストAさん「〇〇事件の背景を深掘りしたい」

卒論作成の学生Bさん「昔の世相風俗を調べ現代と比較したい」

アイドルファンCさん「推しのデビュー当時から知りたい」

ビジネスマンDさん「仕事のアイデアがほしい」

館外・遠隔地から利用

- ファクシミリサービス 賛助会員(法人・個人)限定。
配送サービス 一般利用OK。
Web OYA-bunko 会員版・教育機関版・公立図書館版とも契約

来館されて利用の場合

- 入館料500円(65歳以上半額)
記事コピー 著作権法の許容範囲内
開館時間 午前11時~午後6時

HPはこちら



世田谷観光交流協会に仲間入り

大宅文庫は、東京・世田谷区の「世田谷まちなか観光交流協会」に加入した。6月25日、区内で開かれた総会には大宅映子理事長が参加し、新規加入のあいさつをした。



協会は発足から今年で10年目。会員同士が交流やイベントなどの活動を深めることを狙う。現在、区内外の100を超える企業や団体で構成している。

大宅理事長はあいさつで、戦中・戦後の八幡山での暮らしなどに触れた後、父・大宅壮一をルーツとする大宅文庫の成り立ちを紹介。大宅文庫は80万冊の雑誌で埋まる。雑誌の中には人間の本質が詰まっている。皆さんもぜひひらしてください」と呼びかけた。

最後には「この会の名称は長すぎて覚えられない。父が生きていたなら絶対にこんな名前はない」と父譲りの毒舌も披露し、会場の笑いを誘った。

編集後記

大宅文庫の会員制支援組織「パトローネージュ」は多くの方の温かな善意で成り立つ。千葉県のKさんもその一人で、応援する理由は「雑誌が大好き。大宅文庫はいつまでも存続してほしいから」だ。そのKさんが急逝したのは今年6月。享年七八。長い闘病生活のさなかに突然、心筋梗塞に襲われたという。新聞社を経て地域新聞の編集長を務め、だれよりも活字文化への思い入れが厚い人だった。会うと「大宅文庫、最近はどう? がんばれ」が口癖。飾り気はないが、その言葉は慈愛にあふれた。世界でもまれな雑誌専門図書館としての真の価値を知る人ならばこそだったと今、改めて思う。今号の20ページに、24年度1年間に寄付をされた方々の応援コメントをまとめた。これだけの方々を支えられ、守られている。天国のKさん、大宅文庫はまだまだ頑張ります(責任編集・渡辺喜満)

大宅文庫ニュース第90号 発行所 公益財団法人大宅壮一文庫 理事長 大宅 映子 〒156-0056 東京都世田谷区八幡山3-10-20 TEL.03-3303-2000 https://www.oya-bunko.or.jp

# とびらをひらく



**Seventeen**  
不定期刊

**non:nono**  
毎月20日発売

**MORE**  
不定期刊

**BAILA**  
毎月28日発売

**LEE**  
毎月7日発売

**éclat**  
毎月1日発売

**SPUR**  
毎月23日発売

**MAQUIA**  
毎月22日発売

**MEN'S NON-NO**  
毎月9日発売

**UOMO**  
毎月25日発売

**フライボーイ**  
毎週月曜日発売

**Myojo**  
毎月23日発売

**すばる**  
毎月6日発売

**小説すばる**  
毎月17日発売

**kotoba**  
季刊

**集英社**



〒101-8050  
東京都千代田区一ツ橋2-5-10  
<https://www.shueisha.co.jp/>